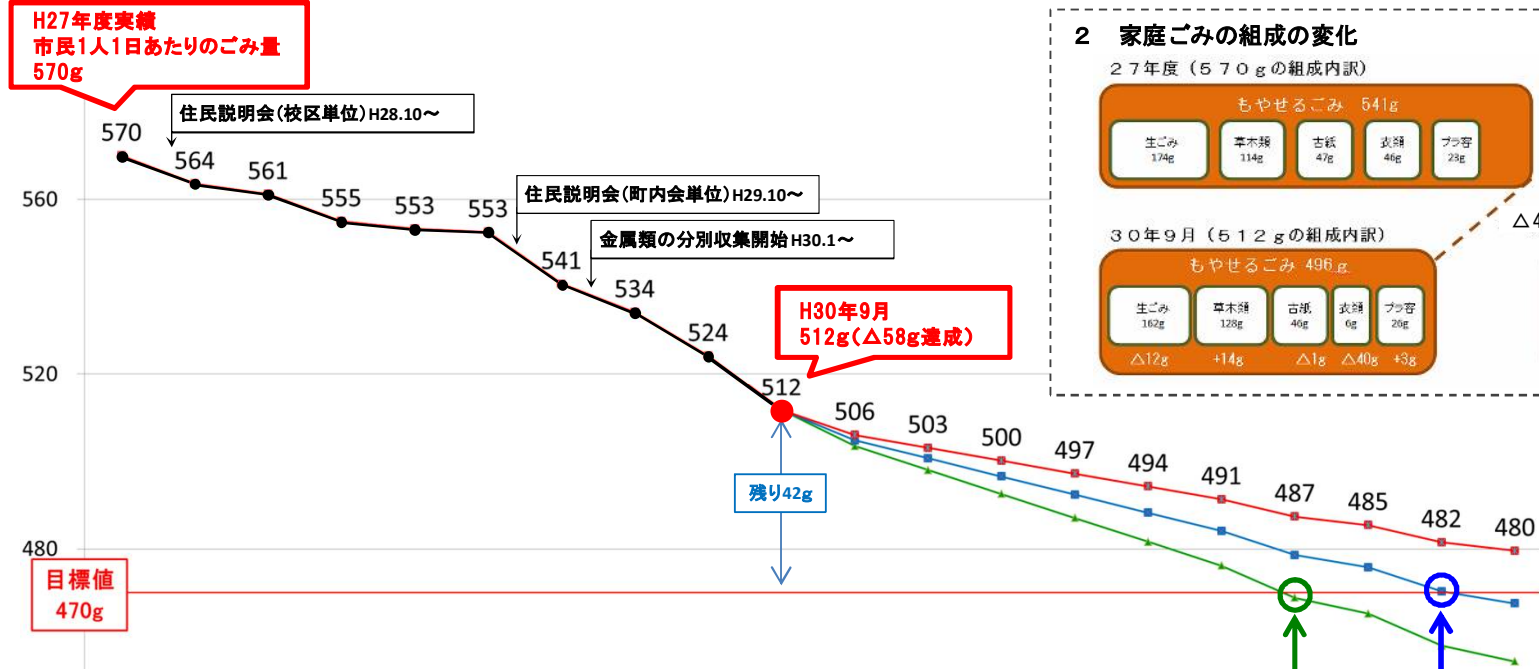


「家庭ごみマイナス100g」のゴール設定について

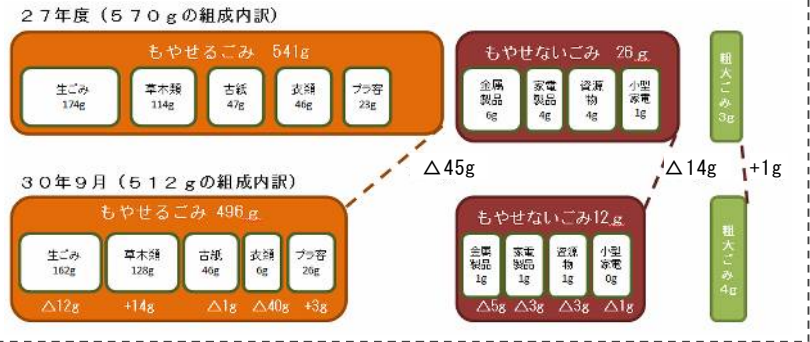
資料1

1 ごみ量の推移と予測（市民1人1日あたりのごみ量）



	27年度	28年10月	28年12月	29年3月	29年6月	29年9月	29年12月	30年3月	30年6月	30年9月	30年12月	31年3月	31年6月	31年9月	31年12月	32年3月	32年7月	32年9月	33年1月	33年3月
パターンA											503	498	492	487	482	476	469	465	458	454
パターンB	570	564	561	555	553	553	541	534	524	512	505	501	496	492	488	484	479	476	470	468
パターンC											506	503	500	497	494	491	487	485	482	480

2 家庭ごみの組成の変化



3 分析

- (1) これまでの主な取組
- 住民説明会 1,150回 25,300人
 - 金属類の分別収集 30年1月~
 - 草木類資源化モデル事業(30年度 2地域)

(2) 分析

①ごみ量の推移

- 金属類の分別収集に先立ちH29年10月~12月に実施した町内会等を対象とした住民説明会以降、ごみの減量効果大きい。

②組成の変化

- 住民説明会等の効果で、生ごみ、衣類は減少が見られたが、古紙、プラスチック類は、横ばいである。
- 草木類は増加している。
- もやせないごみの金属類が減少し、資源化につながっている。

4 目標年度の設定

ごみ量の推移や分析等を踏まえ、下記のとおり目標年度を設定する。

- (1) **目標の達成期限は、平成33年(2021年)3月までとする。**
(33年4月~33年3月のごみ量)
- (2) **100グラムの減量を達成した時点で、目標は達成したものとみなす。**
※ 大規模災害等があった場合は、改めて検証を行うものとする。

5 今後の課題

- 生ごみの減量化
- 古紙類の分別対策
- ごみ減量に関心の低い市民への意識啓発
- 草木類の減量化・資源化